

「教員個人調書」作成の手引き

平成 29 年度

共立女子大学

共立女子短期大学

※ この手引きは、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成29年度改訂版）」（文部科学省）から抜粋し、一部補訂して作成したものです。

・以下の様式の各欄につき、P.6以降に掲げた留意点をご参考に、記入・作成をお願いします。

別記様式第4号(その1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 個 人 調 書

履 歴 書

フリガナ		性別	生年月日(年齢)	年 月 日(満 歳)
氏 名	ご参照: p.5(留意点)			ご参照: p.5(留意点)
国 籍		現住所		
月額基本給	千円			

学 歴

年 月	事 項
年 月	ご参照: p.5(留意点), p.9(記入事例)
年 月	
年 月	

職 歴

年 月	事 項
年 月	ご参照: p.5(留意点), p.9(記入事例)
年 月	
年 月	

学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等

現在所属している学会	
年 月	事 項
年 月	ご参照: p.5(留意点), p.9(記入事例)
年 月	
年 月	

賞 罰

年 月	事 項
年 月	ご参照: p.5(留意点), p.9(記入事例)
年 月	
年 月	

現 在 の 職 務 の 状 況

勤 務 先	職 名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
		ご参照: p.5(留意点), p.11(記入事例)	

開 設 後 の 職 務 の 状 況

勤 務 先	職 名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
		ご参照: p.6(留意点), p.11(記入事例)	

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

氏名

印

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「国籍」の欄は、当該学長等が外国籍である場合にのみ、その国名を記入すること。
- 4 「氏名」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。
- 6 押印した印章に係る印鑑登録証明書を添付すること。押印を省略した場合には、旅券の写しを添付すること。

教育研究業績書

年 月 日
氏名 印

研究分野 研究内容のキーワード

ご参照: p.7(留意点)

教育上の能力に関する事項

事項 年月日 概要

1 教育方法の実践例

ご参照: p.7(留意点), p.11.12(記入事例)

2 作成した教科書, 教材

ご参照: p.7(留意点), p.13(記入事例)

3 教育上の能力に関する大学等の評価

ご参照: p.7(留意点), p.14(記入事例)

4 実務の経験を有する者についての特記事項

ご参照: p.7(留意点), p.15(記入事例)

5 その他

ご参照: p.7(留意点), p.16(記入事例)

職務上の実績に関する事項

事項 年月日 概要

1 資格, 免許

ご参照: p.8(留意点), p.16(記入事例)

2 特許等

ご参照: p.8(留意点), p.16(記入事例)

3 実務の経験を有する者についての特記事項

ご参照: p.8(留意点), p.17.18(記入事例)

4 その他

ご参照: p.8(留意点), p.19(記入事例)

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称 単著・共著の別 発行又は発表の年月 発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称 概要

(著書)

1
2
3
:

ご参照: p.8(留意点), p.19(記入事例)

(学術論文)

1
2
3
:

ご参照: p.8(留意点), p.20(記入事例)

(その他)

1
2
3
:

ご参照: p.8(留意点), p.21(記入事例)

(注)

- この書類は, 学長(高等専門学校にあつては校長)及び専任教員について作成すること。
- 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合, 附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 「研究業績等に関する事項」には, 書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 「氏名」は, 本人が自署すること。
- 印影は, 印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし, やむを得ない事由があるときは, 省略することができる。この場合において, 「氏名」は, 旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。

「教員個人調書」作成の留意点

1. 「氏名」の欄について

印鑑登録証明書（印鑑登録証を有さない者については、旅券（パスポート））の記載と同じ氏名を記入してください。旧姓等の通称名を使用している場合は、（ ）書きで本名を併記してください。

（記載例：通称名が山田太郎、本名が田中太郎の場合・・・【山田（田中）太郎】）

2. 「生年月日（年齢）」の欄について

年齢には、平成32年度開設時（平成32年4月1日現在）における満年齢を記入してください。

3. 「学歴」の欄について

- ① 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。

なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。

- ② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。
- ③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。
- ④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

4. 「職歴」の欄について

- ① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 過去における研究科・学部等の新增設の際に文部科学省大学設置・学校法人審議会による教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあつては、○合、合の判定結果を含む。）を記入してください。
- ⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

5. 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 「現在所属している学会」には、記入時現在において所属する学会の名称を記入してください。
- ② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

6. 「賞罰」の欄について

学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。

7. 「現在の職務の状況」の欄について

- ① 今年度現在における職務の状況について記入してください。
- ② 「職名」については、大学等の教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入してください。職名が無い場合は「－」を記入してください。
- ③ 勤務状況については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。
- ④ 大学等の教員以外の職務がある場合には、記載内容は以下の例を参照し、記載してください。

（例）	[勤務先]	[職名]	[所属部局の名称]	[勤務状況]
	株式会社△△	常勤〇〇	サブチーフ	4日/週
	〇〇弁護士事務所	常勤	所長	3日/週
	財団法人◇◇	非常勤	理事	1日/週

8. 「開設後の職務の状況」の欄について

- ①就任以降に、本学以外の職に従事する場合に記入してください。
- ②常勤、非常勤を問わず、定期的に従事する職について全て記入してください。
- ③大学等の兼任教員の場合は、「勤務先」に大学名、「職名」に兼任、「学部等又は所属部局の名称」に学部・学科名（全学共通の場合などは適宜わかるような表記）、「勤務状況」は週当たりの勤務日数を記入してください。
- ④大学以外の業務の場合は、職に応じて実態が分かるように適宜記入してください。
- ⑤「名誉職」のような場合で、定期的な勤務のない場合は記入不要です。
- ⑥記入内容は5ページ最下段の（例）を参照し、実態が明確になるように記入してください。

「教育研究業績書」作成の留意点

1. この書類は、担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等の業績について作成してください。
2. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」の欄について
 - ① 「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。
※科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表 付表キーワード一覧」：日本学術振興会ホームページをご覧ください。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/saimoku.html
 - ② 大学以外の企業等での実務等の知識や経験を有する場合には、「研究分野」の欄に「〇〇に関する実務」と記入し、「研究内容のキーワード」の欄に職務内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。
3. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について
 - ① 「事項」の項には、各区分に該当する担当授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。
 - ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
 - ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

※「教育上の能力に関する事項」は、大学基準協会や短期大学基準協会による認証評価を受ける際に記載が必須となります。「1 教育方法の実践例」「2 作成した教科書、教材」「3 教育上の能力に関する大学等の評価」は、全専任教員におかれまして、記載をお願いします。

 - ④ 「教育上の能力に関する事項」の例
 - ア「1 教育方法の実践例」について
 - 授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等
 - 司法研修所等の教育機関における教育経験
 - イ「2 作成した教科書、教材」の例
 - 授業や研修指導等で使用する著書、教材等
 - ウ「3 教育上の能力に関する大学等の評価」
 - 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果
 - 各大学における自己点検・評価での評価結果
 - 採用決定の際等における評価内容
 - エ「4 実務の経験を有する者についての特記事項」

(この「実務の経験を有する者についての特記事項」欄は、大学以外の企業・施設等において専門職として従事した実務歴が業績の中心となる方のみ記載してください。教員としてこれまで勤務されている方は、「なし」と記入してください。)

 - 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
 - 大学から受け入れた実習生等に対する指導
 - 日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等
 - 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
 - オ「5 その他」
 - 教育方法・教育実践に関する発表、講演等
 - 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
 - 国家試験問題の作成等

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア「1 資格、免許」

- 医師，歯科医師，薬剤師，看護師，教員等の資格で担当授業科目に関連するもの

イ「2 特許等」

- 特許，実用新案等で担当授業科目に関連するもの

ウ「3 実務の経験を有する者についての特記事項」の例

(この「実務の経験を有する者についての特記事項」欄は、大学以外の企業・施設等において専門職として従事した実務歴が業績の中心となる方のみ記載してください。教員としてこれまで勤務されている方は、「なし」と記入してください。)

- 大学との共同研究
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- 各種審議会・行政委員会，各種ADR等の委員
- 行政機関における調査官等
- 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- 調査研究，留学，海外事情調査等
- 上記を裏付ける報告書，手引き書，マニュアル，雑誌等

エ「4 その他」

- 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- 論文の引用実績等

4. 「研究業績等に関する事項」の欄について

① 著書・論文・学会発表等の研究業績は、直近3～5年間のものが重視されますので、当該期間の業績の記述にはご留意ください。

② 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において発表済みのもののみ記入してください。

③ 「著書、学術論文等の名称」の項について

ア 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。

イ 「著書」については、書名を記入してください。

ウ 「学術論文」については、学術雑誌，学会機関紙，研究報告，紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。

エ 「その他」については、総説，学会抄録，依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを，報告発表，座談会，討論等にあつては当該テーマを記入してください。

芸術、造形、デザイン関係等の分野で作品発表、公演、設計、入選、受賞等の業績を有する場合は、ここに記入してください。

オ 査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。

カ 当該著書等が外国語で著されている場合，著書等名(共著の場合は本人担当部分の章，節，題名も含む)はその外国語で記入するとともに，()書きで訳文を記入してください。当該著書の概要は日本語のみで構いません。

④ 「単著・共著の別」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修，編集，編著，共著，部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。なお、学会発表等の場合は「-」を記入してください。

⑤ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。

⑥ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について

ア 著書については、発行所を記入してください。

イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称，巻・号，掲載ページ等を明記してください。

ウ 報告発表等の場合には、学会大会名，開催場所等を明記してください。

⑦ 「概要」の項について

ア 当該著書等の概要を200 字程度(字数はあくまで目安であり，厳密なものではありません)で記入してください。

イ 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章，節，題名，掲載ページを記入するとともに，本人の氏名(下線を付すこと。)を含め著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏

名)を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その旨記入してください。

「現在の職務の状況」・「開設後の職務の状況」欄

※今年度現在における職務の状況について記入してください。

勤務先	職名	学部等または所属部局 の名称	勤務状況（担当科目等列記）
共立女子大学	教授	〇〇学部 △△学科	××概論、□□演習、△△論、××実習 ××論
		□□学部	□□□□論
		全学共通教育科目	〇〇と××、□□の△△
		大学院〇〇研究科 △△専攻	〇〇〇〇学特講、□□□□研究
△△大学	兼任	△△学部 △△学科	□□□□論

「教育方法の実践例」欄

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	昭和〇年〇月～ 平成〇年〇月	

次の例示のような項目を起こして記載してください。

- ・ 優れた教育方法の実践例
- ・ マルチメディア機器を活用した授業方法
- ・ 学生の授業外における学習促進のための取り組み
- ・ 講義内容の web 上での公開
- ・ 課題・レポートの活用（効果的な題材、評価方法等工夫点について）
- ・ 演習・実習の効果的な活用
- ・ 教育における e-mail 利用
- ・ 遠隔技術の利用
- ・ 視聴覚教育技術の利用
- ・ 市販教材の活用の工夫
- ・ 体験型学習の導入
- ・ 双方向授業の実践
- ・ デイバート、ディスカッションの導入
- ・ プレゼンテーションの導入
- ・ シラバスの活用
- ・ ティーチング・アシスタントの活用
- ・ 学生の授業評価の活用とそのフィードバック
- ・ その他、教育効果を高めるための取り組み 等

次の例示のような内容を盛り込んで記載してください。

- ・ 当該教育方法を実践した科目
例： ●●大学●●学部●●学科の教授として担当の「●●●●論」（専門科目、●年次配当、半期、必修●単位）において・・・
- ・ 実践例の具体的内容
- ・ 当該教育方法を実践したことの効果
例： 学生の理解度が向上した。
例： 学生アンケートの結果からも、学生の満足度が高い。

〔教育方法の実践例〕 記入事例)

事 項	年 月 日	概 要
<p>・メーリングリストを活用した授業のサポート</p>	<p>平成〇年〇月～平成〇年〇月</p>	<p>〇〇大学〇〇学部〇〇学科の専門科目「〇〇論」は、学内 LAN とインターネットを経由して教育研究の必要な情報の取得や情報提供について学ぶものである。この授業の受講者のためのメーリングリストを開設し、教員と受講者全員を登録し、これを用いて、情報提供、質問、回答や指導を行う。このメリットとして、以下のことがあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者が課外の学習を行う際に出た疑問点やトラブルに対し、次の授業まで待たずに質問し、相談し、解決することができる。 ・ 初心者共通のトラブルとその解決の経験の共有によって、他の受講者は同じトラブルを経験しないですむ。 ・ 受講者どうしの教えあいの有効性 ・ 所属機関内のインフォーマルな閉じた電子社会で、技術的な点だけでなく、電子社会のマナーやエチケットを身につける。
<p>・予習レポートによる動機づけと授業設計</p>	<p>平成〇年〇月～平成〇年〇月</p>	<p>〇〇大学〇〇学部〇〇学科の専門科目「〇〇論」(3年生 75人クラス)において実践した。毎時限の最後に、レポート課題を含んだ次回講義内容の解説資料を渡し、次回の講義の前日の朝までに「予習レポート」を提出させる。レポートは正誤ではなく問題への取り組みの真摯さの観点から3段階で評価し、講義の冒頭で返却する。これによって学生は目的を持って授業に参加でき、教員は学生の理解度等に配慮した授業設計を行うことができる。この予習レポートを課すグループと課さないグループに分け、交代で授業及び試験を行った試行結果からみて、予習レポートは学生にとって具体的な課題解決に関わるものとして講義を受け止める手がかかりとなっており、学力にもつながる効果を持つ可能性が示唆される。</p>
<p>・オフィスアワーの活用</p>	<p>平成〇年〇月～平成〇年〇月</p>	<p>〇〇大学〇〇学部〇〇学科の講義科目「〇〇論」(教養課程1, 2年次配当、4単位)において実践した。本講義では〇〇を理解させることを最大の目的とした。文化系学生を対象とした自然科学系の科目であることを鑑み、学生の理解度の把握に最大限勤めたが、オフィスアワーの活用し、授業時間外に希望する学生と自由な雰囲気のもとディスカッションを行った。それによって学生の理解度や問題意識、説明の不十分な点を把握し、講義に反映させた。補足説明や質問への説明は、個別でなく多くの学生に聞かせることにより緊張と集中力を持続させる効果があり、その結果、学生の理解度、満足度が予想より早く目標レベルに達した。</p>

「作成した教科書・教材」欄

事 項	年 月 日	概 要
2 作成した教科書・教材	昭和○年○月～ 平成○年○月	

作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等を掲げてください（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、後掲の著書、学術論文の表題の下に「(再掲)」と表示）

※ 出版された教科書だけでなく、授業を行うにあたって学生の理解を促し、教育効果を高めるために工夫した教材についても記載可です。

例： 講義用教材
補助教材（プリント冊子）
実験・実習指導用マニュアル
スライド、ビデオ等の作成
等

以下の内容を盛り込んで、記載してください。

- ・ 当該教科書・教材を使用した科目
例： ●●大学●●学部●●学科の教授として担当の「●●●●●論」(専門科目、●年次配当、半期、必修●単位)において・・・
- ・ 作成・使用の具体的内容
- ・ 当該教科書・教材の作成・使用の効果

(記入事例)

事 項	年 月 日	概 要
・ ●●学実習画像集	平成○年○月～ 平成○年○月	●●大学●●学部●●学科の教授として担当の「●●学実習」(専門科目、●年次配当、半期、必修●単位)で使用したスライドを CCD カメラで撮影してコンピュータ上で供覧できるようにした。この画像集は実習中、自由に学生が供覧できるようにし、希望者にはコピーを許可した。この画像集と教科書により、学生は自宅で使用する標本を見ながら復習することが可能となった。

「教育上の能力に関する大学等の評価」欄

事 項	年 月 日	概 要
<p>3 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価、教員同士の相互評価をまとめたもの ・ 各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容） ・ 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価等 	<p>平成〇年〇月〇日</p>	<p>※ 教育上の能力に関して客観性をもった評価の内容等について記入する。</p>

「(記入事例)」

事 項	年 月 日	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価アンケート結果における評価 ・ 自己点検・評価の一環として教員同士の相互評価の結果 	<p>平成〇年〇月〇日</p> <p>平成〇年〇月〇日</p>	<p>平成〇年度に実施された学生による授業評価アンケート結果において、担当している「〇〇論」は、〇〇〇〇〇〇と高い評価を得ており、〇〇〇〇〇〇〇〇〇の教育上の手法が、高い効果を上げたことを示す結果となっている。</p> <p>自己点検・評価の一環として教員同士の相互評価の結果、本人につき、「〇〇担当の教授として就任以降、講義・実習を精力的にこなしている。平成〇年から〇年まで、〇〇〇委員として、学生の〇〇〇能力の向上のために尽力した。本学の教育ワークショップや教育懇談会にも積極的に参加し、教育能力の向上に努めている」との評価を受けた。</p>

「教育上の能力に関する事項」の「実務の経験を有する者についての特記事項」欄

※ この「実務の経験を有する者についての特記事項」欄は、大学以外の企業・施設等において専門職として従事した実務歴が業績の中心となる方のみ記載してください。教員としてこれまで勤務されている方は、「なし」と記入してください。

事 項	年 月 日	概 要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等） ・ 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要 ・ その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、講演、職員・関係者に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等が該当します。

(記入事例)

事 項	年 月 日	概 要
実習指導実績	平成〇年〇月～〇年〇月	※ 指導内容、指導人数、指導期間等について記入する。
大学公開講座／社会教育講座講師 ・ 文部省：女性の生涯学習促進事業による●●大学公開講座講師	平成〇年〇月〇日～平成〇年〇月〇日	文部省補助事業で開催した女性の生涯学習促進のための公開講座で、ジェンダー視点の普及啓蒙のため『〇〇〇』と題して、2年間継続講演した。
・ (財) ●●財団 『〇〇研修会』 研修会講師	平成〇年〇月〇日～平成〇年〇月〇日	(財) ●●財団主催・●●大学共催による『〇〇研修会』の講師を努めた。担当科目名は『〇〇〇』で、チーム医療の円滑な実践展開のための人間関係づくりを、グループエンカウンター技法（イメージ・エクササイズ、スリー・テン等）を中心に体験学習方式の宿泊（合宿）形態にて教授指導した。
(企業内教育) 若手研究員向け研修会講師	平成〇年〇月	●●研究所の専門家の若手研究員研修会において、「〇〇」に関する講義を行った。(以下、講義内容について記入)
(社外講師) ●●大学大学院●●研究科特別講演「〇〇〇〇〇」	平成〇年〇月	本講演は、(以下、講演内容について記入)
(企業内教育) 若手研究員向け研修会講師	平成〇年〇月	本講演は、(以下、講演内容について記入)
	平成〇年〇月	●●研究所の専門家の若手研究員研修会において、「〇〇」に関する講義を行った。(以下、講義内容について記入)

「教育上の能力に関する事項」の「その他」欄

事 項	年 月 日	概 要
5 その他		

- ・ 教育方法・教育実践に関する発表、講演等
- ・ 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
- ・ 教育実績に対する受賞歴
- ・ カリキュラムの改善
- ・ 実験・実習内容の改善
- ・ 教育方法研究
- ・ 教育実績に関する受賞歴
- ・ 学位論文指導実績

等

(記入事例)

事 項	年 月 日	概 要
・ 学位論文指導実績	平成〇年 〇月～〇 年〇月	※ 指導テーマ・内容、指導人数、指導期間等について記入。

「資格、免許」欄

事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許	平成〇年 〇月	

資格について、担当している教育の内容に関するものなどについて記載してください。

- ※ スポーツ等実技関係者の場合の指導者としての資格等
- ※ 「学歴」欄で記載した資格等

「特許等」欄

事 項	年 月 日	概 要
2 特許等		

本人の担当している教育内容等に関連した事項について記載してください。
(記入例)

- 1 ○○システム
登録番号 特許第●号
- 2
- ・

※ 特許の内容、本人担当部分、共同研究者名等について記入。

「職務上の能力に関する事項」の「実務の経験を有する者についての特記事項」欄

※ この「実務の経験を有する者についての特記事項」欄は、大学以外の企業・施設等において専門職として従事した実務歴が業績の中心となる方のみ記載してください。教員としてこれまで勤務されている方は、「なし」と記入してください。

事 項	年月日	概 要
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○実務経験の記載方法については、「職歴」欄に記入した事項を中心に、担当している科目の教育内容に関する事項を、下記の事項等を参考に記載してください。</p> <p>① 従事した期間</p> <p>② 職務の内容（どのような職務に就いて、どのような役割を果たしたか）</p> <p>③ 成果、結果</p> <p>○企業、官公庁等の研究者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・ 大学との共同研究による研究業績がある場合その概要、成果、当該研究者の役割 <p>○その他の企業・団体関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際援助・開発、先端医術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 <p>○情報技術関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用方法、ソフト・システム開発歴） <p>○マスコミ関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 執筆した記事の概要 ・ 制作した番組の概要 <p>○医師や看護婦等医療技術者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症例研究会での発表等の概要 <p>○福祉その他社会的活動の関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 <p>○スポーツ等実技関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者としての経歴・実績・資格 <p>○芸術関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の概要 <p>○博物館・美術館関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当した展覧会の概要 ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要 <p>○その他全般を通じて</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ 特に、実務家教員は、この部分が重要です。</p> <p>※ 職務上の実績に関する事項として、本人の当該専門分野に関する実務の経験等について、近年の当該分野の実務に関する状況等に通じていることなども含め、詳細に記入してください。</p> </div>

（「職務上の能力に関する事項」の「実務の経験を有する者について特記事項」の記入事例）

事 項	年 月 日	概 要
<p>●●県●●保健所 保健師室 保健師</p>	<p>昭和●●年 4 月 ～ 昭和●●年 3 月</p>	<p>保健所保健婦として、●●市の一部及び●●町の一部を担当し、知的障害児、難病患者、精神障害者の訪問を行った。 患者訪問指導から家族間の調整、自治医、専門医療機関、幼稚園、保育園との連携、調整を行った。 母子保険業務を担当し、三歳児健康診断後の事後指導として親子教室を●●保健所において初めて開催する。 また、●●保健所、●●保健所、●●市、●●大学小児科●●医師、●●医師等とともに乳幼児検診研究会を主催し、県内の乳幼児健康診査の意義や方法等を検討会を開始し、この研究会の初代リーダーを勤めた。 看護学生、医学生、保健婦学生等の実習指導を担当した。</p>
<p>●●県●●部 保健予防課 健康増進係 主査</p>	<p>昭和●●年 4 月 ～ 昭和●●年 3 月</p>	<p>健康増進係主査として、1年間、母子健康事業を担当し、●●県の母子保険事業の企画、実施の統括を行い、新規のB型肝炎母子感染防止保健指導、神経芽細胞種検査事業を取り入れた。 また、全国に先駆けて県内全保健所において乳幼児二次健康診査の開始した。さらに、二次健康診査後要指導児に対する個別、集団指導の企画を行い、予算獲得し、次年度、県内全保健所において実施した。</p>
<p>●●県●●部 保健予防課 老人保健係 主査</p>	<p>昭和●●年 4 月 ～ 昭和●●年 4 月</p>	<p>老人保健係主査として、2年間、老人保健法施行後の老人保健事業の全市町村への定着を図るため、事務職に代わり保健婦として初めての配置となり、老人保健事業の実施状況調査、市町村指導の統括を行った。</p>
<p>●●県●●部 健康対策課 健康増進班 主査</p>	<p>昭和●●年 4 月 ～ 平成●●年 3 月</p>	<p>昭和●●年に組織改編となり、健康増進班主査として、●●県の脳卒中死亡率減少対策、高血圧予防対策の企画、統括を行った。 昭和●●年度、老人保健法による保健事業の実態調査を県内全市町村に行い、その調査結果を基に健康診査、健康相談、健康手帳交付、機能訓練、訪問指導の全市町への拡大を図った。乳がんの自己触診を県内に普及するため、乳がんの自己触診方法等のパンフレットを作成し5千部を印刷し全市町村に配付した。 また、県民が健康に着目するように健康診査の受診率向上と、うす塩運動を目標にキャンペーンを開始した。チラシの県内全戸配付、ポスター、ステッカー、の作成配付、健康フェスティバルのイベント等を行い、昭和●●年度は、シンボルマークの制定、脳卒中予防の映画製作、スライド作成により多彩な方法で啓発に勤めた。ハイリスク者対策として、健康診断事後指導の実態調査を行い、医療機関に委託した健康診査の結果を把握していない市町村が多く、県の成人病管理指導協議会に提言し、事後指導に力を入れる方針をたてた。 昭和●●年度に「●●県高血圧予防対策事業検討委員会」を設置して、県内2000名に対して、高血圧者健康管理実態調査や健康診査事後指導の実態を把握し公表した。その結果を基に、●●県の健康診査事後指導指針を作成した。昭和●●年度●●県看護協会に委託して、普及啓発パンフレットを作成配付した他、健康づくり支援養成として、ヘルスサポーター育成事業に着手し実践事業に発展させた。 さらに、脳卒中発症調査専門委員会、小委員会を設置し、同年10月から県内の脳卒中発症患者の生活環境調査、医療の受療状況の実態調査を県内全医療機関の発症届け出を元に開始した。 昭和●●年7月号雑誌●●『生活教育』に「これからの●●の保健婦活動」と題した座談会に出席、老人保健事業の本庁における活動をとおしてこれからの保健婦活動について意見を述べた。</p>

「学術論文」欄

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. ○○○○○○	単	昭和○年○月	「○○○○紀要」 第○巻第○号	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ pp.○～○
2. ○○○○○○	共	昭和○年○月	「○○○○紀要」 第○巻第○号	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ pp.○～○ 本人担当部分：○○○○○○○○ ・・・・○○○○ 共著者：○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○
3. ○○○○○○ (博士論文)	単	学位授与年月	学位授与大学名	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ 全○頁
4. ○○○○○○	共	平成○年○月	○○学会誌「○○○ ○」 第○巻第○号	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ pp.○～○ 本人担当部分：共同研究につき抽出不可能 <i>or</i> 実験結果の○○(ご本人の専門分野からのアプローチを記載)○○的見地から評価し、論文のとりまとめを行った。等 共著者：○○○○、○○○○、○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○
5. .				

「研究業績に関する事項」の「その他」欄

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (翻訳) 1. ○○○ (邦訳表題) ○○○○ 原書名：○○○○○○ ○ 原著者：○○○○	共	昭和○年○月	○○○○出版社	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ A○判 全○頁 本人担当部分：○○○○○○○ ・・・・○○○○ 監修：○○○○ 共訳者：○○○○、○○○○、○○○、 ○○○○、○○○○、○○○○、○○○ ○○
(学会発表) 1. ○○○○○○○○	—	昭和○年○月	○○学会第○回大会 (於○○大学)	○○○○・・・ (200字程度) ・・・・○○○○ 本人担当部分：○○○○○○○ ・・・・○○○○ 共同発表者：○○○○、○○○○、○○ ○○、○○○○、○○○○、○○○○、 ○○○○
2. ○○○○○○○○ ・	—			